

三股町文化財報告書 第7集

ミ マタ チョウ ナイ イ セキ
三 股 町 内 遺 跡 V

2005年

宮崎県三股町教育委員会

三股町文化財報告書 第7集

三股町内遺跡 V

2005年

宮崎県三股町教育委員会

序

三股町教育委員会では、近年の開発事業等の増加により、埋蔵文化財の保護と諸開発との調整が大きな課題となっております。そこで、平成6・7年度に実施された町内遺跡詳細分布調査の結果をもとに、開発に伴う遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところでもあります。本書は平成16年度に実施された試掘・確認調査の報告書であります。この調査が、開発と埋蔵文化財の保存とが共存しうるきっかけとなり、埋蔵文化財理解への一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力頂いた関係諸機関並びに地権者の方々に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

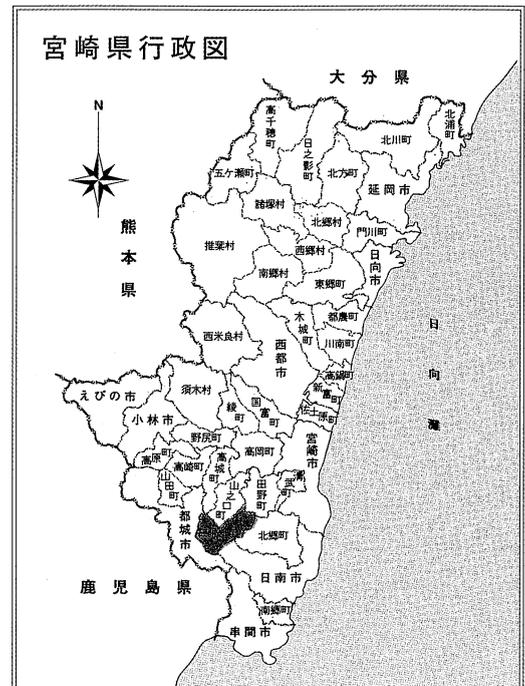
三股町教育委員会

教育長 田中 久光

例 言

1. 本書は、三股町教育委員会が国・県の補助を受けて、平成16年度に実施した町内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 遺跡の名称は小字名による。
3. 調査体制は以下の通りである。

調査主体	三股町教育委員会	教 育 長	田 中 久 光
		生涯学習課長	柳 橋 一 彦
		同 課長補佐	内 村 陽一郎
		同 係 長	盛 満 美代子 (庶務担当)
		主 査	黒 木 欣 綱 (調査・庶務・執筆・編集担当)
4. 本書に使用した写真は、黒木が担当した。
5. 報告書中の方位は磁北である。
6. 諸記録は三股町教育委員会で保管している。



本文目次

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査	1
2. 天神原地区の試掘調査	5
3. 宮脇地区の試掘調査	8
4. 轟木遺跡の確認調査	10

挿図目次

第1図 基本土層柱状図（外戸口・中原遺跡群）	1
第2図 周辺遺跡位置図（外戸口・中原遺跡群）	2
第3図 基本土層柱状図（天神原地区）	5
第4図 調査対象地及びトレンチ位置図（天神原地区）	6
第5図 周辺遺跡位置図（天神原地区）	6
第6図 周辺遺跡位置図（宮脇地区）	8
第7図 周辺遺跡位置図（轟木遺跡）	10

図版目次

図版1 宮ノ原地区基本土層	1
図版2 宮ノ原地区調査状況－1	3
図版3 宮ノ原地区調査状況－2	4
図版4 天神原地区基本土層	5
図版5 天神原地区調査状況	7
図版6 宮脇地区調査状況	9
図版7 轟木遺跡調査状況	11

1. 外戸口遺跡群・中原遺跡群の確認調査

[遺跡の位置と環境]

当地は三股町の西部に位置し、北部は萩原川、南部は年見川に囲まれた平地で、現況は広域な畑地帯となっている。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば外戸口遺跡群は弥生、古墳、平安時代の包蔵地となっており、南部に隣接する中原遺跡群は縄文、古墳、平安時代の包蔵地となっている。但し、外戸口遺跡群についても平成12～14年度の確認調査により縄文時代の遺物も出土している。平成15・16年度では遺物の確認はできなかった。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、平成12年度から継続して実施しているものであり、宮ノ原地区における県営畑地帯総合整備事業に起因している。計画区域が127haという広範囲に及ぶ事業であり、計画的な調査が必要であり、三股町役場耕地課の協力のもと土地所有者との調整を行いつつ、試掘・確認調査を実施している。調査の結果をもとに、畑地帯では集水路の設置工事が行われており、協議材料として今後とも調査の継続が必要となるであろう。

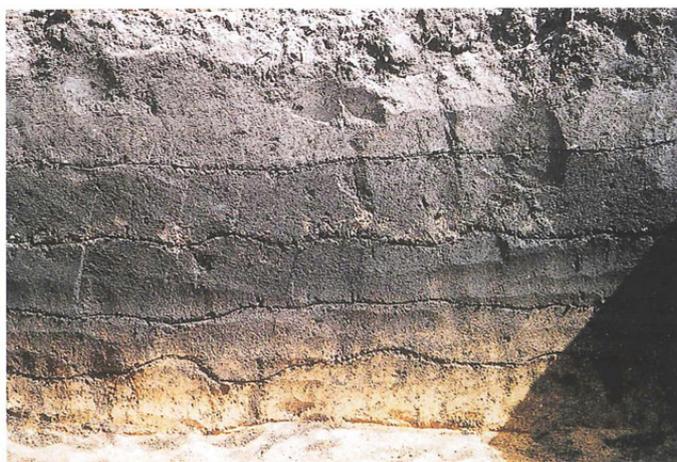
[調査の内容]

調査はトレンチ法（2m×3m）で実施した。事業計画内の町道脇の畑地をその調査対象地とし、主に休耕地を選び、土地所有者との調整を行いつつ調査を実施した。平成12年度では23箇所、13年度は16箇所、14年度は20箇所、平成15年度は15箇所、本年度は9月17日より実施し、合計25箇所実施した。

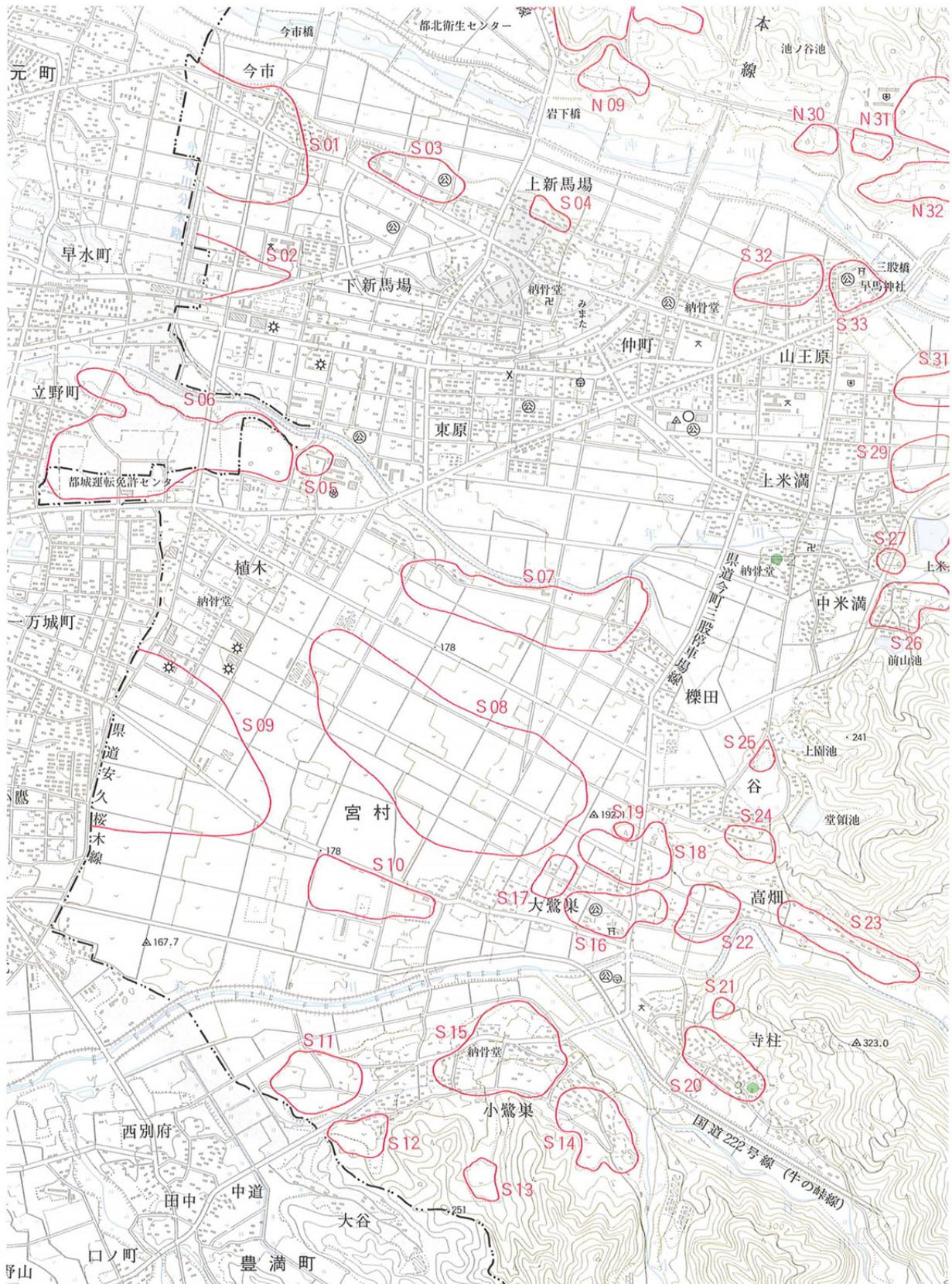
層位は第2図のとおりで、黒色土層、暗褐色土層が包含層であることが確認されており、開発時には慎重に対処していただいている。周知の遺跡としている当遺跡（S7・S8）はその範囲を拡大訂正する必要があり、来年度の本事業完了に伴う試掘・確認調査を以て訂正を行う予定である。

表	土
黒	色 土
暗	褐 色 土
黒	褐 色 土
御	池 軽 石 層

第1図 基本土層柱状図



図版1 基本土層断面



- | | | | | |
|--------------|-------------|--------------|-------------|-------------|
| S05 : 古堀第1遺跡 | S06:古堀第2遺跡 | S07 : 外戸口遺跡群 | S08 : 中原遺跡群 | S09 : 下鷹遺跡群 |
| S10 : 上鷹遺跡群 | S11 : 下水流遺跡 | S15 : 平原遺跡 | S16 : 畑田遺跡 | S17 : 西原遺跡 |
| S18 : 岡下遺跡 | S19 : 岡之元遺跡 | S21 : 前畑遺跡 | S22 : 尾崎遺跡 | S23 : 高畑遺跡 |
| S24 : 和田遺跡 | S25 : 中村遺跡 | S26 : 山内遺跡 | S27 : 山下遺跡 | |

第2図 周辺遺跡位置図 (1 : 25,000)



トレンチ 60



トレンチ 61



トレンチ 63



トレンチ 64



トレンチ 67



トレンチ 68

図版2 宮ノ原地区調査状況-1



トレンチ 70



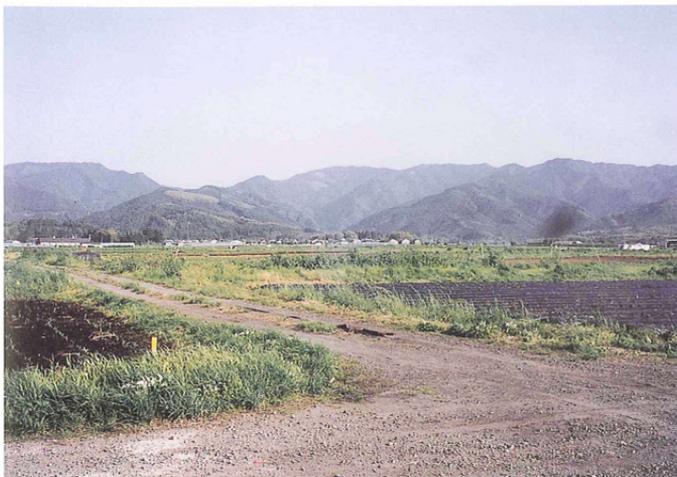
トレンチ 71



トレンチ 74



トレンチ 75



調査地遠景



作業風景

図版3 宮ノ原地区調査状況-2

2. 天神原地区の試掘調査

[遺跡の位置と環境]

当地は、三股町の北東部、大字長田字天神原に位置する。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば、縄文時代の包蔵地とされる中原遺跡（N49）の東隣、時代不詳の包蔵地とされる天神原遺跡（N41）の北隣に位置する。平成13年11月7日には、県道33号線を挟んで南隣の天神原遺跡内において、同様の宅地分譲に伴う確認調査を実施したが、遺構・遺物は確認されなかった（三股町文化財報告書 第4集『三股町内遺跡Ⅱ』2002年刊行）。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、三股町土地開発公社による宅地分譲に伴う事前調査で、対象面積は4,940㎡で、現況は水田（一部畑地）であった。周知の包蔵地外ではあるが、埋蔵文化財の確認の必要性を説明し、担当の三股町企画調整課の協力を得、平成16年5月24日から26日までの3日間、試掘調査を実施した。調査は、調査対象区内に2m×3m規模のトレンチを4箇所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

[調査の結果]

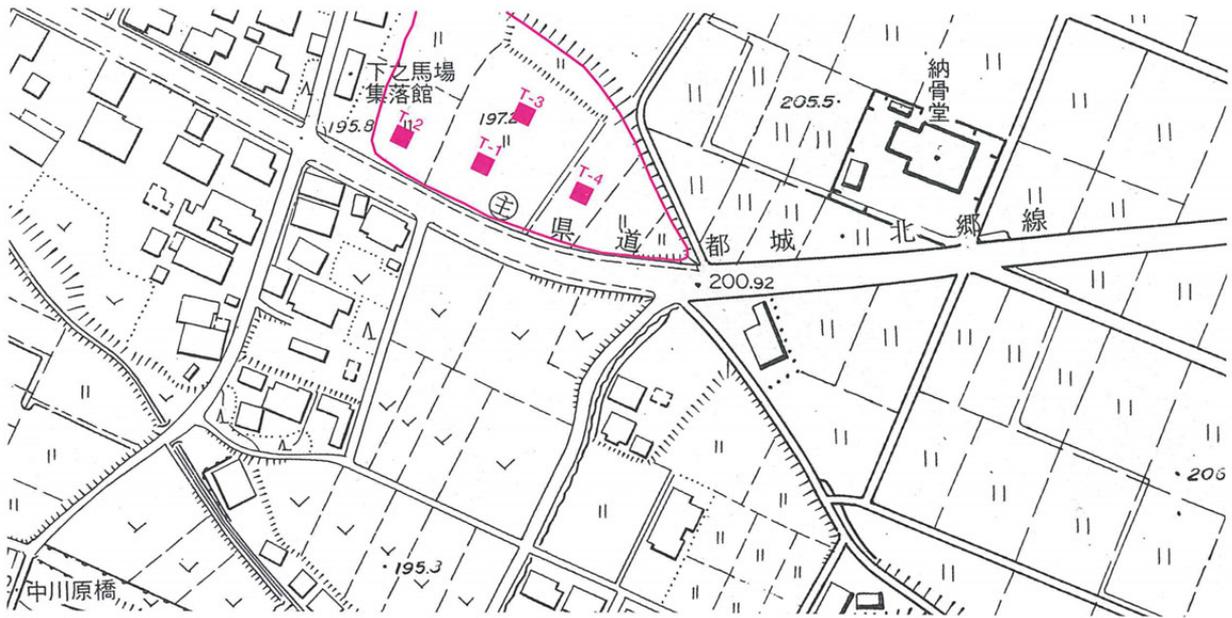
基本層序は、Ⅰ・Ⅱ層は褐灰色土（耕作度）、Ⅲ層は黒色土、Ⅳ層は暗褐色土、Ⅴ層は黄褐色土、Ⅵ層御池軽石層で、4箇所のトレンチの内、トレンチ1、3、4から古墳時代の遺物が主にⅢ層・Ⅳ層から出土し、トレンチ1では竪穴住居跡の輪郭の一部が検出された。遺物は、本調査時に取り上げるものとし、埋め戻した。調査の結果、遺跡の確認がされたことにより、県文化課の指導により、企画調整課と協議し、事業面積4,940㎡全面の本発掘調査を平成16年9月15日より着手した。

Ⅰ：表	土
Ⅱ：表	土
Ⅲ：黒	色 土
Ⅳ：暗	褐 色 土
Ⅴ：暗	黄 褐 色 土
Ⅵ：御	池 軽 石 層

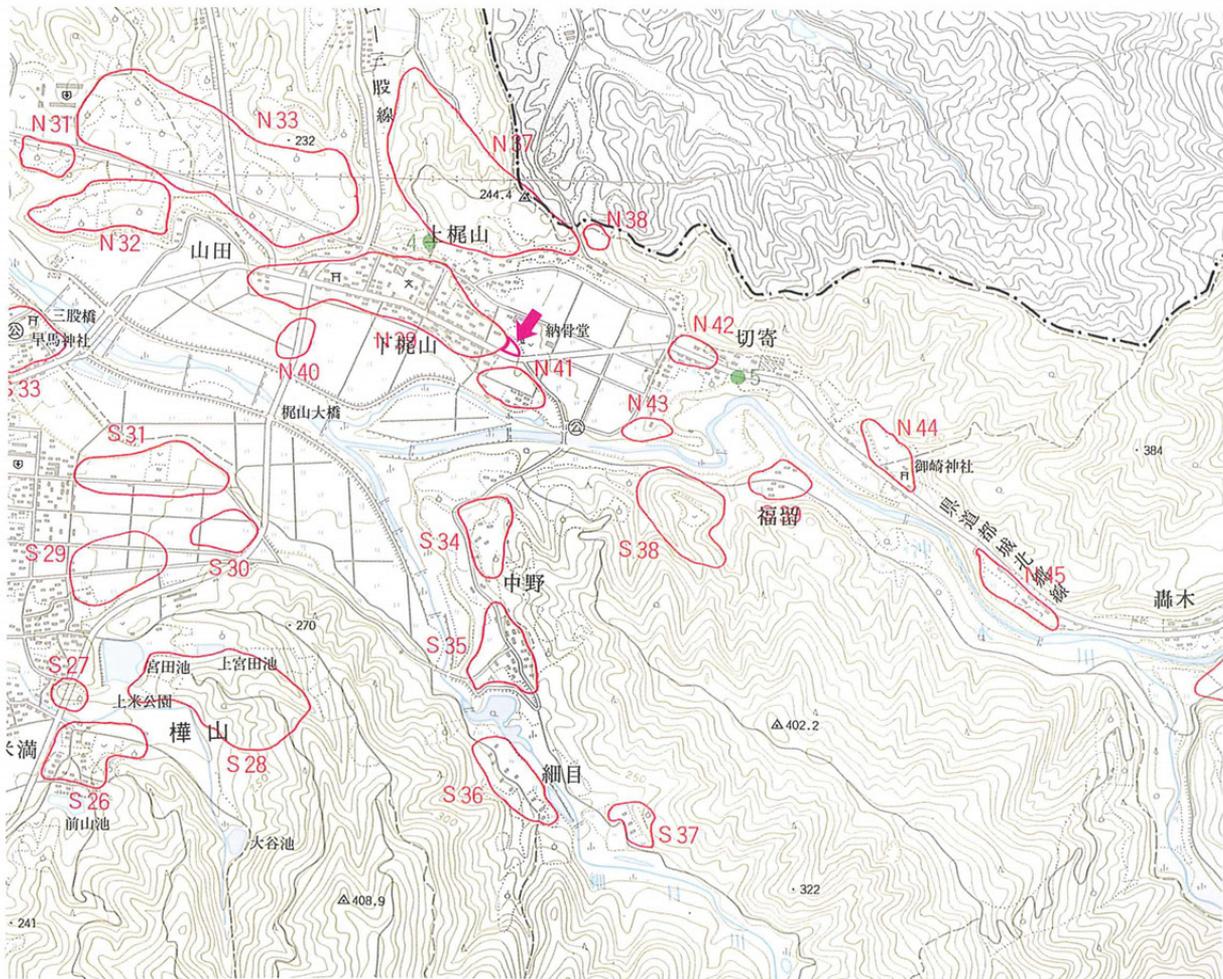
第3図 基本土層柱状図



図版4 基本土層断面



第4図 調査対象地及びトレンチ位置図 (1 : 2,500)



- | | | | | |
|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| N31 : 丸岡遺跡 | N32 : 宮ノ尾遺跡 | N33 : 霧島待遺跡群 | N37 : 城ノ下遺跡 | N38 : 坂ノ下遺跡 |
| N39 : 中原遺跡 | N40 : 上山田遺跡 | N41 : 天神原遺跡 | N42 : 辻原第一遺跡 | N43 : 辻原第二遺跡 |
| N44 : 牧遺跡 | S34 : 杉木水流遺跡 | S35 : 車場遺跡 | S38 : 栗山遺跡 | S39 : 福留遺跡 |

第5図 周辺遺跡位置図 (1 : 25,000)



トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



トレンチ 4



調査対象地（西から）



作業風景

図版5 天神原地区調査状況

3. 宮脇地区の試掘調査

[遺跡の位置と環境]

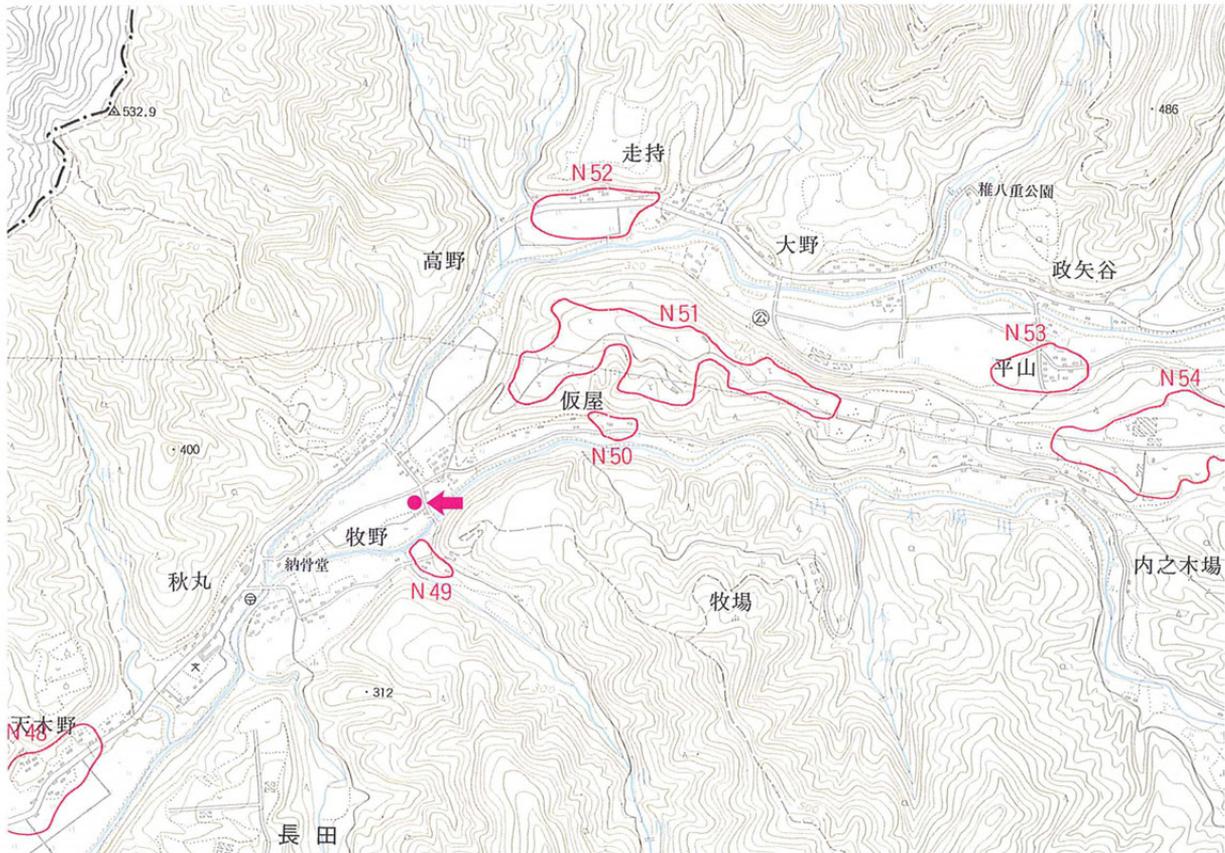
当地は、三股町の東部、大字長田字宮脇に位置する。周知の遺跡には含まれていないが、当町の長田地区は遺構・遺物の確認が不十分であることに加え、縄文時代の遺跡が散見されることから、試掘調査を実施し、遺跡の把握に努めた。

[調査に至る経緯]

平成16年10月21日に、三股町役場農林振興課から仮屋地区農村広場建設に伴い文化財の所在の有無についての照会が提出された。対象面積は3,629㎡で、現況は畑地であった。周知の包蔵地外であったが、埋蔵文化財の確認の必要性を説明し、同年11月24日に試掘調査を実施した。調査は、2m×3mのトレンチを4箇所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

[調査の結果]

調査の結果、4箇所のトレンチのいずれからも遺構・遺物は検出されなかった。一部、二次アカホヤ、アカホヤ層を掘削したが、攪乱も多く既に造成が行われた形跡が見られた。



N49：小川内遺跡 N50：御崎原第1遺跡 N51：御崎原第2遺跡 N52：走持遺跡 N53：平山遺跡
N54：長原遺跡

第6図 周辺遺跡位置図 (1：25,000)



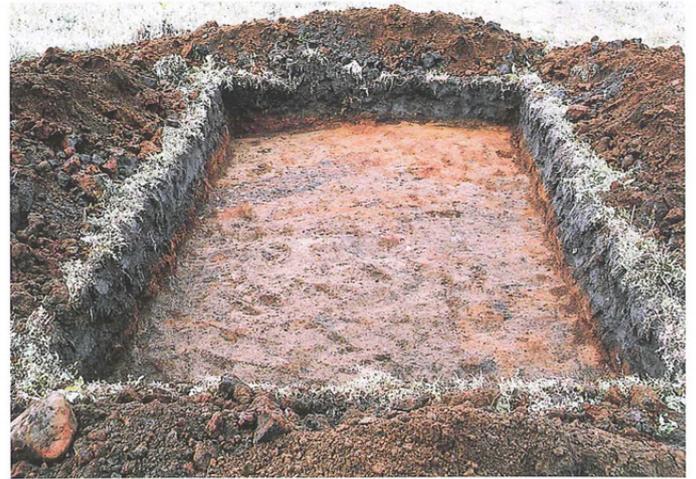
トレンチ 1



トレンチ 2



トレンチ 3



トレンチ 4



調査対象地（東から）



作業風景

図版6 宮脇地区調査状況

4. 轟木遺跡の確認調査

[遺跡の位置と環境]

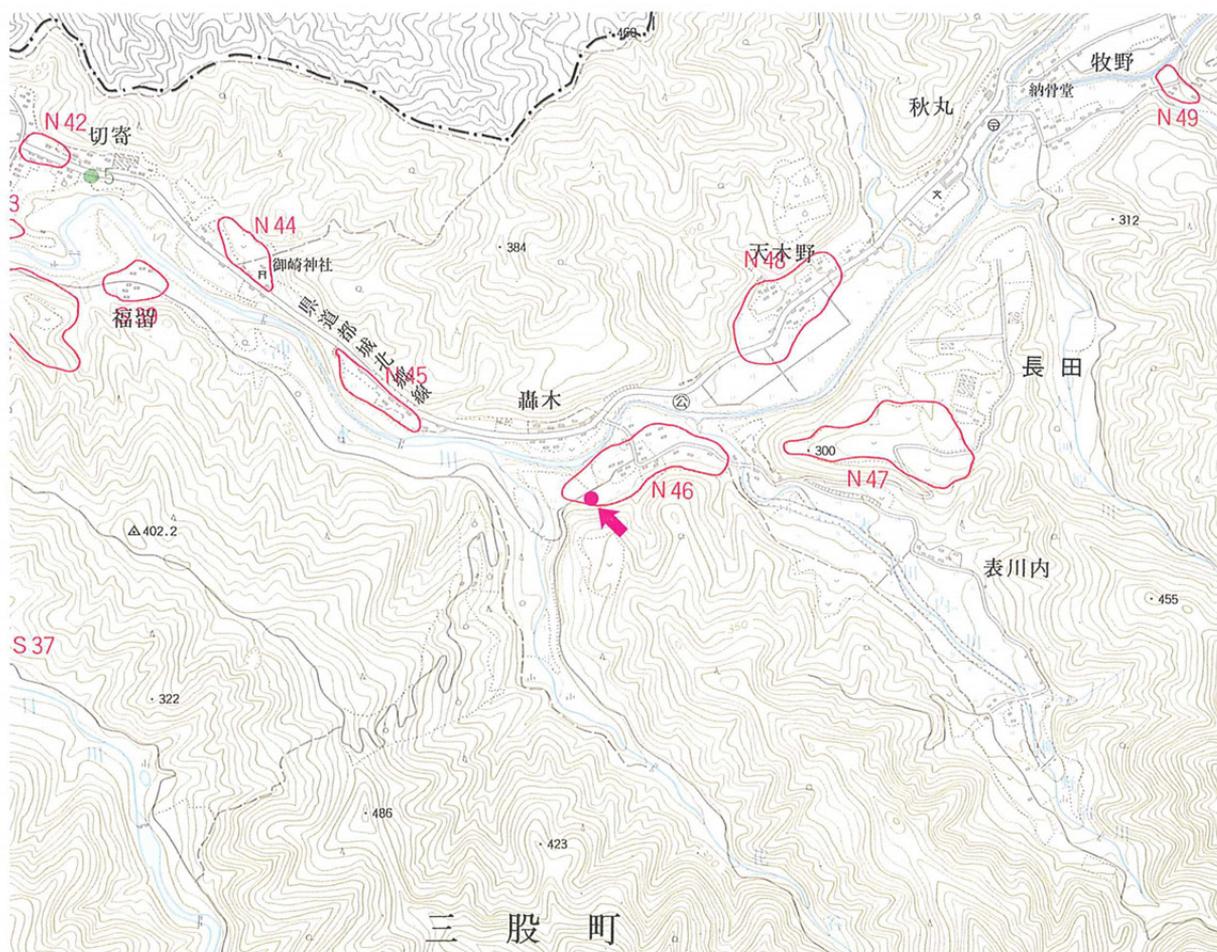
当地は、三股町の東部、大字長田字轟木に位置する。『三股町遺跡詳細分布調査報告書』（平成8年度発行）によれば、時代は不詳であるが、遺構・遺物を包蔵する轟木遺跡(N46)に当る。

[調査に至る経緯]

今回の調査は、携帯電話中継基地局建設に伴う確認調査である。確認調査は、平成16年12月27日に実施した。約300㎡の調査対象地は資材置き場になっていたため、隣接する水田を地権者の了承をいただき確認調査を行った。調査は、2m×3mのトレンチを2箇所設定し、遺構・遺物の検出に努めた。

[調査の結果]

調査の結果、2箇所のトレンチのいずれからも遺構・遺物は検出されなかった。



N44：牧遺跡 N45：一堂遺跡 N46：轟遺跡 N47：火ノ口遺跡 N48：天木野遺跡
N49：小川内遺跡

第7図 周辺遺跡位置図 (1：25,000)



トレンチ 1



トレンチ 2



調査対象地（西から）



調査対象地（東から）



作業風景（手前トレンチ1、奥トレンチ2）



作業風景

図版7 轟木遺跡調査状況

報 告 書 抄 録

フリガナ	ミマタチョウナイイセキ
書名	三股町内遺跡 V
シリーズ名	三股町文化財調査報告書
シリーズ番号	第7集
編集者名	黒木 欣綱
発行機関	宮崎県三股町教育委員会
所在地	宮崎県北諸県郡三股町五本松 1-1
発行年月日	2005年3月31日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
外戸口遺跡群	三股町大字樺山字 外戸口、出水、八谷、 向原			2004.10.16 ～ 2005.3.31	40㎡	県営畑地帯 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・古墳時代	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
中原遺跡群	三股町大字宮村字 中原、北原、西原			2004.10.16 ～ 2005.3.31	50㎡	県営畑地帯 総合整備事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・古墳時代	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
天神原地区	三股町大字長田 字天神原			2004.5.24 ～ 2004.5.26	24㎡	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地	弥生・古墳時代	土坑・柱穴		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
宮脇地区	三股町大字長田 字宮脇			2004.11.24 ～ 2004.11.24	24㎡	仮屋地区農村 広場建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
不詳	不詳	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
轟木遺跡	三股町大字長田 字轟木			2004.12.27 ～ 2004.12.27	12㎡	携帯電話中継 基地局
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地	不詳	なし		なし		

三股町文化財調査報告書 第7集
三股町内遺跡 V

2005年3月

発行 宮崎県三股町教育委員会
〒889-1995
宮崎県北諸県郡三股町五本松1-1
TEL 0986-52-1111

印刷 (有)五十市印刷
〒885-0085
宮崎県都城市平塚町3140-1
TEL 0986-26-8006